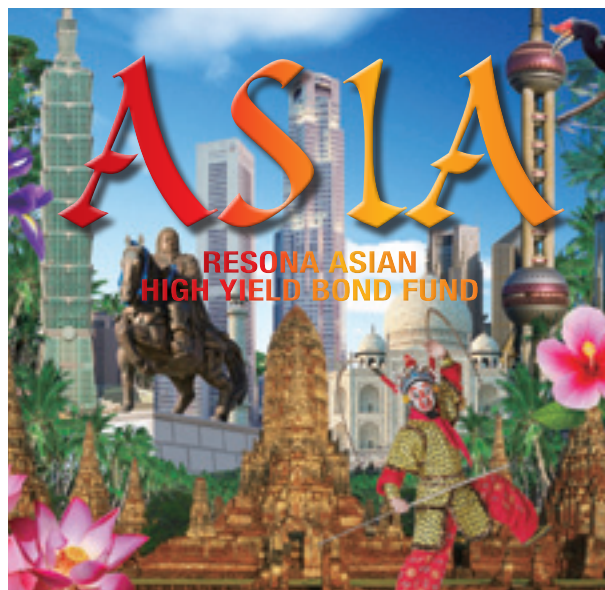


りそなアジア・ハイ・イールド債券ファンド

りそなアジア・ハイ・イールド債券ファンド アジア通貨コース
りそなアジア・ハイ・イールド債券ファンド 高金利通貨コース
りそなアジア・ハイ・イールド債券ファンド ブラジルリアルコース
りそなアジア・ハイ・イールド債券ファンド 日本円コース

投資信託説明書(交付目論見書)

追加型投信／海外／債券



ファンドに関する投資信託説明書(請求目論見書)を含む詳細な情報は下記のインターネットホームページで閲覧、ダウンロードすることができます。投資信託説明書(請求目論見書)については、販売会社にご請求いただければ当該販売会社を通じて交付いたします。また、本書には信託約款の主な内容が含まれておりますが、信託約款の全文は投資信託説明書(請求目論見書)に掲載されております。

なお、販売会社に投資信託説明書(請求目論見書)をご請求された場合は、その旨をご自身で記録しておくようにしてください。ファンドの販売会社、ファンドの基準価額等については、下記の照会先までお問い合わせください。

損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント株式会社

■ 電話番号：03-5290-3519 (受付時間：営業日の午前9時～午後5時)

■ ホームページ：<http://www.sjnk-am.co.jp/>

〈委託会社〉[ファンドの運用の指図を行う者]

損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント

損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第351号

設立年月日:1986年2月25日

資本金:1,550百万円(2013年3月末現在)

運用する投資信託財産の合計純資産総額 417,457百万円(2013年3月末現在)

〈受託会社〉[ファンドの財産の保管及び管理を行う者]

株式会社りそな銀行

●本書は、金融商品取引法(昭和23年法律第25号)第13条の規定に基づく目論見書です。

●この投資信託説明書(交付目論見書)により行う「りそなアジア・ハイ・イールド債券ファンド」の受益権の募集については、委託会社は、金融商品取引法第5条の規定により有価証券届出書を平成24年11月9日に関東財務局長に提出し、平成24年11月10日にその効力が発生しております。

●当ファンドは、商品内容に関して重大な変更を行う場合には、投資信託及び投資法人に関する法律(昭和26年法律第198号)に基づき事前に受益者の意向を確認する手続きを行います。

●投資信託の財産は受託会社において信託法に基づき分別管理されています。

ご購入に際しては、本書の内容を十分にお読みください。

ファンドの名称について

ファンドの名称について、以下の略称にて表記することがあります。

ファンドの名称	略称
りそなアジア・ハイ・イールド債券ファンド アジア通貨コース	アジア通貨コース
りそなアジア・ハイ・イールド債券ファンド 高金利通貨コース	高金利通貨コース
りそなアジア・ハイ・イールド債券ファンド ブラジルリアルコース	ブラジルリアルコース
りそなアジア・ハイ・イールド債券ファンド 日本円コース	日本円コース

(以下、上記を総称して「りそなアジア・ハイ・イールド債券ファンド」または総称してあるいは個別に「ファンド」ということがあります。)

商品分類及び属性区分

商品分類		属性区分						
単位型・追加型	投資対象地域	投資対象資産 (収益の源泉)	投資対象資産	決算頻度	投資対象地域	投資形態	為替ヘッジ	
アジア通貨コース、 高金利通貨コース、 ブラジルリアル コース	追加型	海外	債券	その他資産 (投資信託証券(債券 社債(低格付債)))	年12回 (毎月)	アジア	ファンドオブ ファンズ	なし
日本円コース								あり (フルヘッジ)

※属性区分に記載している「為替ヘッジ」は、対円での為替リスクに対するヘッジの有無を記載しております。

商品分類及び属性区分の定義につきましては、一般社団法人投資信託協会のホームページ (<http://www.toushin.or.jp/>) をご参照ください。

追加的記載事項

《信託約款の変更(予定)について》

主にアジアのハイ・イールド債券に投資する投資信託証券「Lion Global Asian High Yield Bond Fund-Lion Global Investors アジア・ハイ・イールド・ボンド・ファンド」を、各ファンドの主要投資対象に追加すべく、信託約款の変更を予定しています。

<変更の理由>

各ファンドの純資産総額の増加にともない、主要投資対象である「Nikko AM Asia Limited Investment Series-Nikko AM アジア・ハイ・イールド・ボンド・ファンド」の資産は相当規模になりました。

今後更に規模が増大した場合にも、効率的なアジア・ハイ・イールド債券への投資を継続するため、弊社では、あらかじめ、主要投資対象を追加することが適切であると判断いたしました。

<信託約款変更手続きおよび日程>

信託約款の変更に関して、書面による決議を行います。書面決議は、平成25年5月9日時点の議決権を行使することができる受益者の半数以上であって、当該受益者の議決権の3分の2以上の賛成により可決されます。この場合、予定通り平成25年7月8日をもって信託約款の変更をいたします。

- | | |
|----------------|--------------------------|
| ①受益者及び受益権口数の確定 | 平成25年5月9日 |
| ②書面による議決権の行使期間 | 平成25年5月27日から平成25年6月12日まで |
| ③書面による決議の日 | 平成25年6月13日 |
| ④信託約款変更適用日 | 平成25年7月8日 |

主要投資対象に追加予定の投資信託証券の概要

Lion Global Asian High Yield Bond Fund-Lion Global Investors アジア・ハイ・イールド・ボンド・ファンド
クラス4/クラス3/クラス2/クラス1

形態	ケイマン籍外国投資信託(円建て)	
運用の基本方針	①主として、アジア地域の米ドル建てのハイ・イールド債券等に投資します。	
	②原則として以下の通貨で為替取引(対米ドル等)を行います。	
	アジア・オセアニア	クラス4
	高金利通貨	クラス3
	ブラジルレアル	クラス2
	日本円	クラス1

主な投資制限	①有価証券の空売りは行いません。 ②純資産総額の10%を超える借入れを行いません。 ③投資信託証券への投資は行いません。
決算日	毎年12月31日
信託報酬等	純資産総額に対して年率0.77% ※上記のほか、投資信託証券の設立・開示に関する費用等(監査報酬、弁護士報酬等)がかかります。
申込・解約手数料	ありません。
投資顧問会社	ライオングローバルインベスターズ

※名称及びその運用会社の名称等は今後変更となる場合があります。

<ライオングローバルインベスターズの会社概要>

- ・アジア株式および債券の運用に特化したシンガポールの運用会社。
 - ・1986年にOCBCアセット・マネージメントとして設立。
 - ・マレーシア、ブルネイ、中国等アジア各地に拠点があります。
 - ・シンガポールの大手銀行であるOCBCグループの一員。
- ・この信託約款の変更之际、運用管理報酬(信託報酬)や投資対象とする投資信託証券の信託報酬等の総額に変更はございません。ただし、追加となる投資信託証券の設立等に関する費用が別途かかります(当該費用は、設定当初の純資産総額等により金額が異なるため、費用の合計額については表示することができません。)
 - ・ファンドの運用の基本方針は、主要投資対象以外での変更はございません。
 - ・書面決議の結果、この信託約款の変更を行わないこととなった場合は、主要投資対象は追加しません。そのため、ファンドの規模が急増した場合、新たに投資信託証券を組入れることができないため、アジア・ハイ・イールド債券への効率的な投資ができず、信託約款に定める運用の基本方針に沿った運用が困難となる場合や、購入の受付を停止する場合があります。

ファンドの目的・特色

ファンドの目的

各ファンドは、投資信託証券を通じてインカムゲインの確保と信託財産の成長を図ることを目指します。

ファンドの特色

1 主として日本を除くアジア(オセアニアを含む)^{※1}のハイ・イールド債券(米ドル建て等)^{※2}を実質的な主要投資対象とし、インカムゲインの確保と信託財産の成長を目指します。

■各ファンド(4コースを総称して「各ファンド」)は、日興アセットマネジメント アジア リミテッドが運用する投資信託証券「Nikko AM Asia Limited Investment Series-Nikko AM アジア・ハイ・イールド・ボンド・ファンド」、および損保ジャパン日本興亜アセットマネジメントが運用する投資信託証券「マネープールマザーファンド」を主要投資対象とするファンド・オブ・ファンズ方式で運用します。

■原則として、「Nikko AM Asia Limited Investment Series-Nikko AM アジア・ハイ・イールド・ボンド・ファンド」への投資比率を高位に保ちます。

※1「中国・香港・インドネシア・インド・韓国・マレーシア・フィリピン・シンガポール・タイ・台湾・オーストラリア等」が主な投資対象国となります。

※2ハイ・イールド債券とは、格付機関によってBB格以下に格付される債券を表します。信用力が低いため、その見返りとして高い利回りとなる傾向があります。

日興アセットマネジメント アジア リミテッドについて

■シンガポールを本拠地とする日興アセットマネジメント アジア リミテッドは、シンガポール及び東南アジアにおいて約30年間の資産運用実績を持っています。

■運用資産は、約153億シンガポールドル(約1兆829億円[※])。2012年12月末現在

※1シンガポールドル=70.78円で円換算(2012年12月末現在)。

※各ファンドが主要投資対象とする投資信託証券の名称及びその運用会社の名称等は今後変更となる場合があります。

2 「りそなアジア・ハイ・イールド債券ファンド」は、為替取引の対象通貨が異なる4コース(アジア通貨コース^{※1}、高金利通貨コース^{※2}、ブラジルリアルコース、日本円コース)から構成されています。

※1アジア通貨(インドルピー、インドネシア・ルピア、オーストラリアドルに原則均等配分)で為替取引を行います。

投資候補通貨:インドルピー、インドネシア・ルピア、フィリピン・ペソ、韓国・ウォン、マレーシア・リング、オーストラリアドル

※2高金利通貨(ブラジル・リアル、トルコ・リラ、南アフリカ・ランドに原則均等配分)で為替取引を行います。

投資候補通貨:ブラジル・リアル、メキシコ・ペソ、トルコ・リラ、ハンガリー・フォリント、ポーランド・ズロチ、カナダ・ドル、オーストラリアドル、南アフリカ・ランド

※アジア通貨コース及び高金利通貨コースの通貨構成に関しては、投資候補通貨の流動性・金利状況などを総合的に勘案して、定期的に見直しを行います。上記の投資候補通貨及び通貨構成は2013年2月末におけるものであり、今後変更となる可能性があります。なお、通貨構成は必ずしも相対的に金利の高い上位通貨から選定されるとは限りません。

3 原則、毎月10日(休業日の場合は翌営業日)の決算時に収益の分配を行います。

■将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

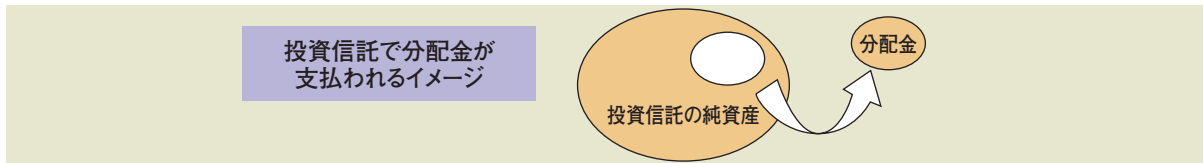
■分配対象収益が少額の場合は分配を行わないことがあります。

ファンドの目的・特色

追加的記載事項

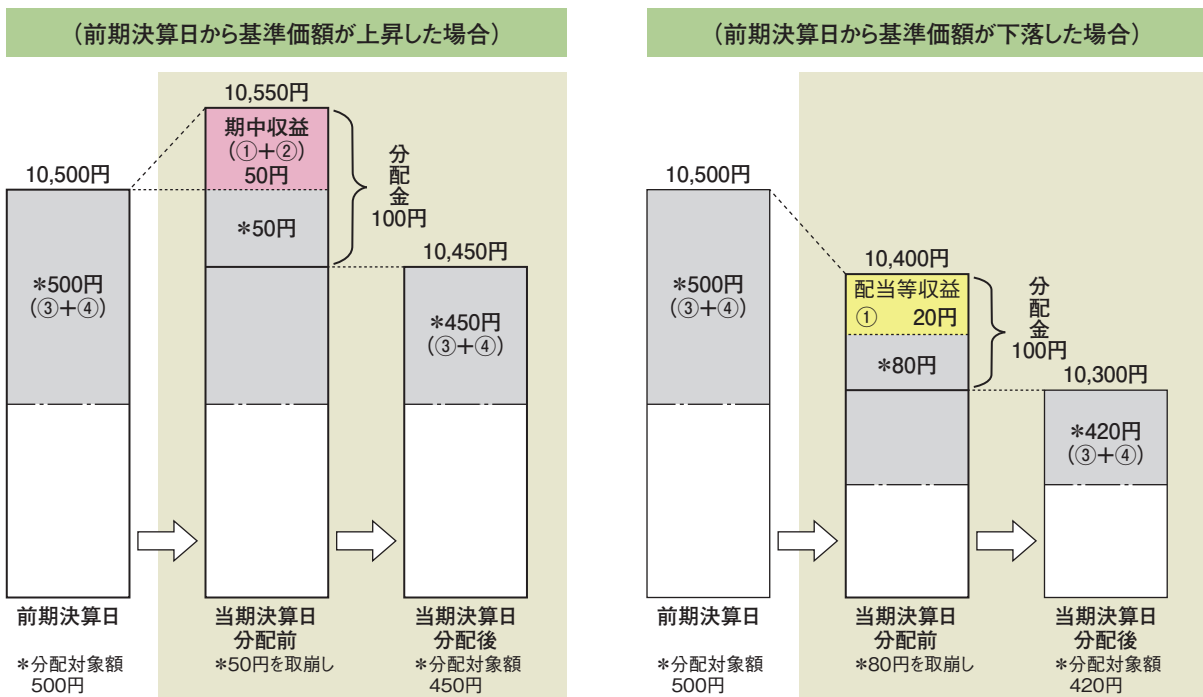
《収益分配金に関する留意事項》

- ◆分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。



- ◆分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

(計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合)

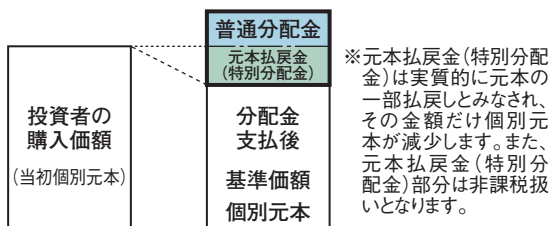


(注) 分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③分配準備積立金および④収益調整金です。分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。

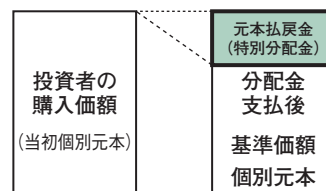
※上記はイメージであり、実際の分配金額や基準価額を示唆するものではありませんのでご留意下さい。

- ◆投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部又は全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。

(分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合)



(分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合)



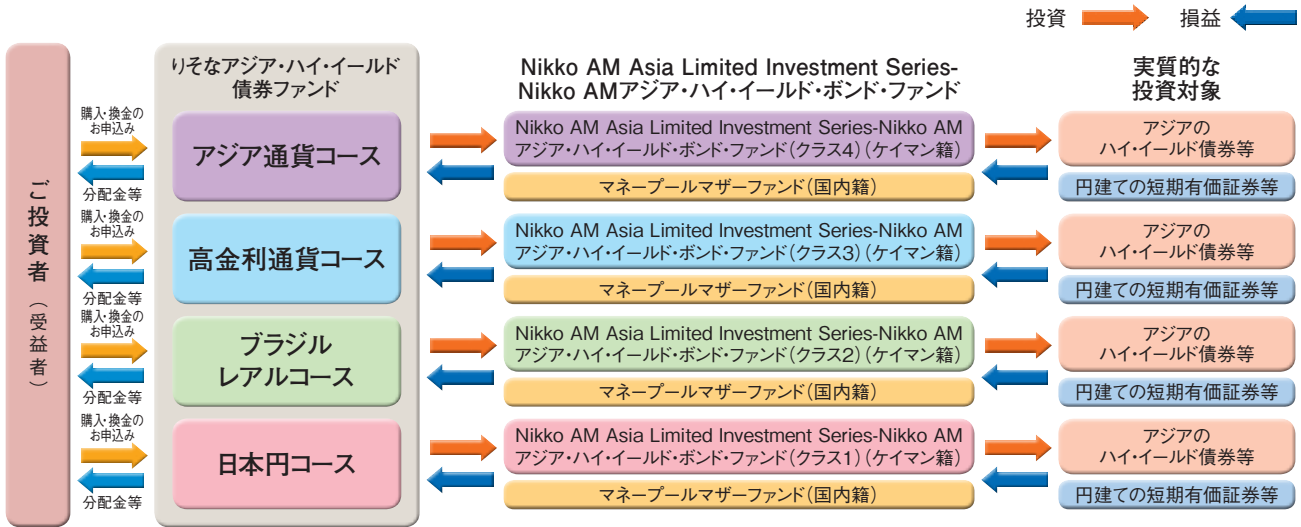
普通分配金: 個別元本(投資者のファンドの購入価額)を上回る部分からの分配金です。
元本払戻金(特別分配金): 個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の投資者の個別元本は、元本払戻金(特別分配金)の額だけ減少します。

(注) 普通分配金に対する課税については、後掲「手続・手数料等」の「ファンドの費用・税金」をご参照下さい。

ファンドの目的・特色

ファンドの仕組み

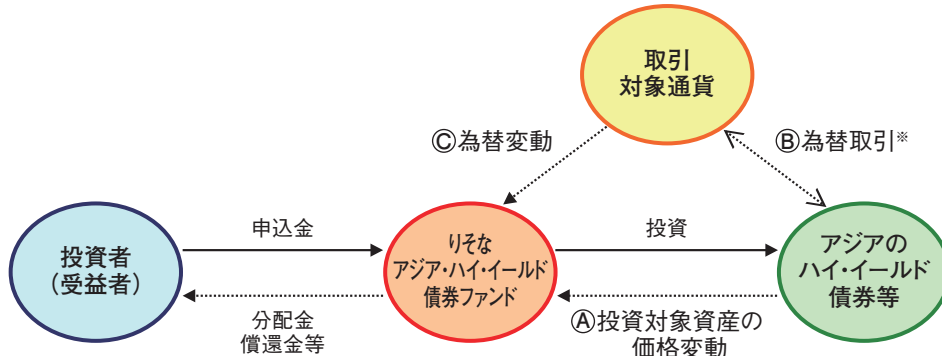
各ファンドは、「ファンド・オブ・ファンズ」です。「ファンド・オブ・ファンズ」においては、株式や債券などの有価証券に直接投資するのではなく、主として複数の他の投資信託(ファンド)を組入れることにより運用を行います。



通貨選択型ファンドの収益のイメージ

◆通貨選択型の投資信託は、株式や債券などといった投資対象資産に加えて、為替取引の対象となる円以外の通貨も選択することができるよう設計された投資信託です。

<通貨選択型の投資信託のイメージ図>



※取引対象通貨が円以外の場合には、当該取引対象通貨の対円での為替リスクが発生することに留意が必要です。

◆通貨選択型の投資信託の収益源としては、以下の3つの要素が挙げられます。これらの収益源に相応してリスクが内在していることに注意が必要です。

	(A)	(B)	(C)
収益の源泉	アジアのハイ・イールド債券等の 利子収入、値上がり/値下がり	為替取引による プレミアム/コスト	為替差益/差損*
収益を得られる ケース	・金利の低下 債券価格の上昇	・取引対象通貨 > 米ドル等の 短期金利 プレミアム(金利差相当分の 収益)の発生	・円に対して取引対象 通貨高 為替差益の発生
損失や コストが 発生する ケース	・金利の上昇 ・発行体の信用状況の悪化 債券価格の下落	・取引対象通貨 < 米ドル等の 短期金利 コスト(金利差相当分の 費用)の発生	・円に対して取引対象 通貨安 為替差損の発生

※円コースについては、為替取引(円買い/米ドル等売り)により為替変動リスクの低減を図りますが、為替変動リスクを完全に排除できるものではありません。

ファンドの目的・特色

主な投資制限

- ◆投資信託証券への投資割合には制限を設けません。
- ◆外貨建資産への実質投資割合には制限を設けません。
- ◆デリバティブの直接利用は行いません。
- ◆株式への直接投資は行いません。
- ◆同一銘柄の投資信託証券への投資割合には制限を設けません。

分配方針

毎決算時(原則として毎月10日。休業日の場合は翌営業日。)に、原則として以下の方針に基づき分配を行います。

①分配対象額の範囲

経費控除後の繰越分を含めた利子、配当収入と売買益(評価損益を含みます。)等の全額とします。

②分配対象収益についての分配方針

収益分配金額は、委託会社が基準価額水準、市場動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わないことがあります。

③留保益の運用方針

留保益の運用については特に制限を設けず、委託者の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。

※将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

追加的記載事項

《主要投資対象の投資信託証券の概要》

名称	Nikko AM Asia Limited Investment Series-Nikko AM アジア・ハイ・イールド・ボンド・ファンド クラス4/クラス3/クラス2/クラス1	
形態	ケイマン籍外国投資信託(円建て)	
運用の基本方針	①主として、アジア地域の米ドル建てのハイ・イールド債券等に投資します。	
	②原則として以下の通貨で為替取引(対米ドル等)を行います。	
	アジア・オセアニア	クラス4
	高金利通貨	クラス3
	ブラジルレアル	クラス2
	日本円	クラス1
主な投資制限	①有価証券の空売りは行いません。 ②純資産総額の10%を超える借入れを行いません。 ③投資信託証券への投資は行いません。	
決算日	毎年12月31日	
信託報酬等	純資産総額に対して年率0.77% ※上記のほか、投資信託証券の設立・開示に関する費用等(監査報酬、弁護士報酬等)、管理報酬等がかかります。	
申込・解約手数料	ありません。	
投資顧問会社	日興アセットマネジメント アジア リミテッド	

名称	マネープールマザーファンド
形態	国内籍親投資信託(円建て)
運用の基本方針	わが国の公社債等(残存期間の短い公社債やコマーシャル・ペーパー等の短期有価証券)に投資を行い、安定した収益の確保を目指して運用を行います。
主な投資制限	・株式への投資は、転換社債の転換及び転換社債型新株予約権付社債の新株予約権の行使により取得したものに限るものとし、投資割合は信託財産の純資産総額の5%以下とします。 ・外貨建資産への投資は行いません。
設定日	平成23年9月30日
信託期間	無期限
決算日	原則として、毎年8月10日
信託報酬等	ありません。
申込・解約手数料	ありません。
委託会社	損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント株式会社
受託会社	株式会社りそな銀行

※各ファンドが主要投資対象とする投資信託証券の名称及びその運用会社の名称等は今後変更となる場合があります。

投資リスク

《基準価額の変動要因》

各ファンドの基準価額は、組入れられる有価証券等の値動き等による影響を受けますが、これらの運用による損益はすべて投資者の皆様へ帰属いたします。したがって、投資者の皆様への投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。また、投資信託は預貯金とは異なります。

各ファンドの主なリスクは以下のとおりです。

※基準価額の変動要因は、以下に限定されるものではありません。

◆価格変動リスク

公社債の価格は、国内外の政治・経済情勢、金融政策等の影響を受けて変動します。一般に、金利が上昇すると、公社債の価格は下落します。組入れている公社債の価格の下落は、ファンドの基準価額が下落する要因となります。

◆信用リスク

公社債の価格は、発行体の財務状態、経営、業績等の悪化及びそれらに関する外部評価の悪化等により下落することがあります。組入れている公社債の価格の下落は、ファンドの基準価額が下落する要因となります。また、発行体の倒産や債務不履行等の場合は、公社債の価値がなくなることもあり、ファンドの基準価額が大きく下落する場合があります。

なお、各ファンドが投資信託証券を通じて組入れるハイ・イールド債券は、一般に投資適格の債券に比べ、発行体の業績等の悪化や景気動向等による価格変動が大きく、発行体の倒産や債務不履行等が生じるリスクが高いと考えられます。

◆流動性リスク

国内外の政治・経済情勢の急変、天災地変、発行体の財務状態の悪化等により、有価証券等の取引量が減少することがあります。この場合、ファンドにとって最適な時期や価格で、有価証券等を売買できないことがあり、ファンドの基準価額が下落する要因となります。

また、取引量の著しい減少や取引停止の場合には、有価証券等の売買ができなかったり、想定外に不利な価格での売買となり、ファンドの基準価額が大きく下落する場合があります。

なお、各ファンドが投資信託証券を通じて組入れるハイ・イールド債券は、一般に投資適格の債券に比べ、市場規模や取引量が小さく、流動性が低いと考えられます。

◆為替変動リスク

各ファンドでは、投資信託証券を通じて、外貨建資産を主要な投資対象とします。したがって、各ファンドへの投資には為替変動リスク(為替変動により外貨建資産の円換算価格が変動するリスク)が伴います。なお、各ファンドの為替変動リスクは以下の通りです。

アジア通貨コース／高金利通貨コース／ブラジルリアルコース

各ファンドが主要投資対象とする投資信託証券は、主に米ドル建て等の外貨建資産(以下、投資対象資産といいます。)へ投資し、原則として各ファンドでは対象通貨に対する為替取引(米ドル等売り／対象通貨買い)を行うため、各ファンドの対象通貨の対円での為替変動による影響を大きく受けます。また、投資対象資産を対象通貨で完全に排除することができないため、投資対象資産の米ドル等発行通貨の為替変動による影響を受ける場合があります。

なお、対象通貨の金利が投資対象資産の発行通貨の金利より低いときには、金利差相当分が為替取引コストとなります。

なお、一部の対象通貨については、直物為替先渡取引(NDF)*を利用することにより為替取引を行う場合があります。

NDFの取引価格は、需給や対象通貨に対する期待等により、金利差から理論上期待される水準とは大きく異なる場合があります。この結果、基準価額の値動きは、実際の当該対象通貨の為替市場の値動きから想定されるものと大きく乖離する場合があります。

※直物為替先渡取引(NDF)とは、制度上の規制等がある通貨の為替取引を行う場合等に利用され、決済時に元本部分の受け渡しを行わずに、米ドルまたはその他の主要な通貨によって差金決済する取引をいいます。

投資リスク

日本円コース

当ファンドが主要投資対象とする投資信託証券は、主に米ドル建て等の外貨建資産（以下、投資対象資産といいます。）へ投資し、原則として対円で為替ヘッジ（米ドル等売り／円買い）を行い、為替変動リスクの低減を図りますが、完全に為替変動リスクをヘッジできるものではありません。なお、円金利が投資対象資産の発行通貨の金利より低いときには、金利差相当分が為替ヘッジコストとなります。

◆カントリーリスク

一般的に、主要先進国以外の国では、主要先進国に比べて、経済が脆弱である可能性があり、国内外の政治・経済情勢、取引制度、税制の変化等の影響を受けやすく、また市場規模や取引量が小さいこと等から有価証券等の価格がより大きく変動することがあり、ファンドの基準価額が大きく下落することがあります。

《その他の留意点》

◆クーリングオフ制度（金融商品取引法第37条の6）の適用はありません。

《リスクの管理体制》

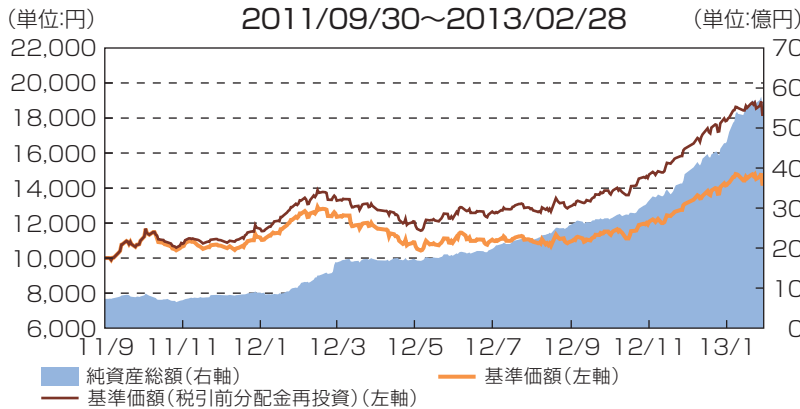
委託会社では、取締役会が決定した運用リスク管理に対する取組方針に基づき、運用担当部から独立した部署及び社内委員会において運用に関する各種リスク管理を行います。

運用実績

◆アジア通貨コース

(基準日:2013年2月28日)

基準価額・純資産の推移



- (注1) 基準価額(税引前分配金再投資)は、税引前の分配金を決算日の基準価額で再投資したものととして委託会社にて計算しており、実際の騰落率とは異なります(以下同じ)。
 (注2) 基準価額及び基準価額(税引前分配金再投資)の計算において信託報酬(純資産総額に対して年率0.9660%(税込み))は控除されております(以下同じ)。
 (注3) 当ファンドは、ベンチマークを設定しておりません。
 (注4) 分配実績がない場合、あるいは設定来累計の分配金額が少額の場合、基準価額及び基準価額(税引前分配金再投資)のグラフが重なって表示される場合があります。

基準価額	14,243円
純資産総額	56.49億円

(注) 基準価額は、分配金控除後です。

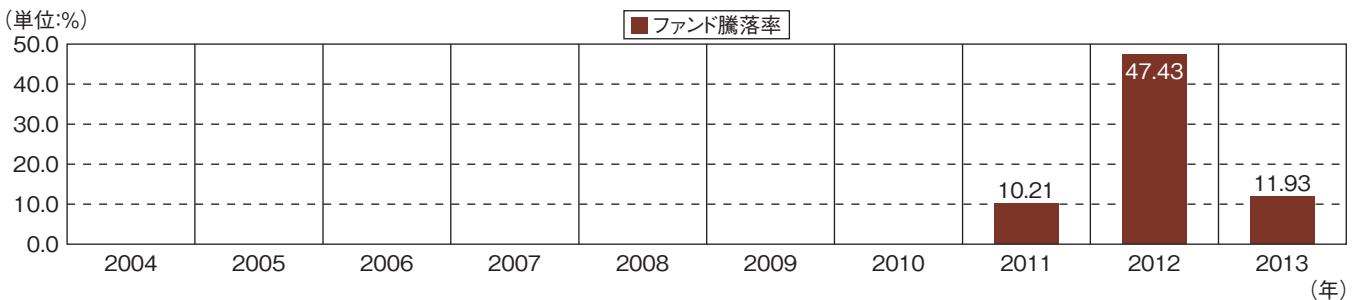
構成比率(対純資産)

NikkoAM Asia Investment Series-NikkoAM AsiaHighYieldBondFund IV	94.20%
マネーパルマザーファンド	1.03%
コール・ローン等	4.77%
合計	100.00%

分配の推移(1万口当たり、税引前)

2012年10月	180円	(注1) 直近5期分の分配実績を記載しております。
2012年11月	180円	
2012年12月	180円	
2013年01月	200円	(注2) 収益分配金額は委託会社が決定します。分配を行わないこともあります。
2013年02月	200円	
直近1年間累計	2,200円	
設定来累計	2,840円	

年間収益率の推移(暦年ベース)

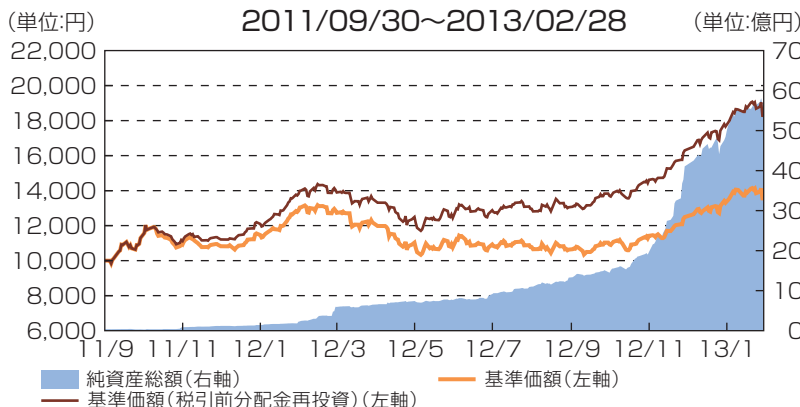


- (注1) ファンド騰落率は、基準価額(税引前分配金再投資)を使用して算出しております。
 (注2) 2011年は設定日(2011年09月30日)を10,000とし年末までのもの、2013年は年初から基準日までの騰落率です。
 (注3) 当ファンドは、ベンチマークを設定しておりません。

◆高金利通貨コース

(基準日:2013年2月28日)

基準価額・純資産の推移



- (注1) 基準価額(税引前分配金再投資)は、税引前の分配金を決算日の基準価額で再投資したものととして委託会社にて計算しており、実際の騰落率とは異なります(以下同じ)。
 (注2) 基準価額及び基準価額(税引前分配金再投資)の計算において信託報酬(純資産総額に対して年率0.9660%(税込み))は控除されております(以下同じ)。
 (注3) 当ファンドは、ベンチマークを設定しておりません。
 (注4) 分配実績がない場合、あるいは設定来累計の分配金額が少額の場合、基準価額及び基準価額(税引前分配金再投資)のグラフが重なって表示される場合があります。

基準価額	13,550円
純資産総額	56.42億円

(注) 基準価額は、分配金控除後です。

構成比率(対純資産)

NikkoAM Asia Investment Series-NikkoAM AsiaHighYieldBondFund III	94.76%
マネーパルマザーファンド	1.04%
コール・ローン等	4.20%
合計	100.00%

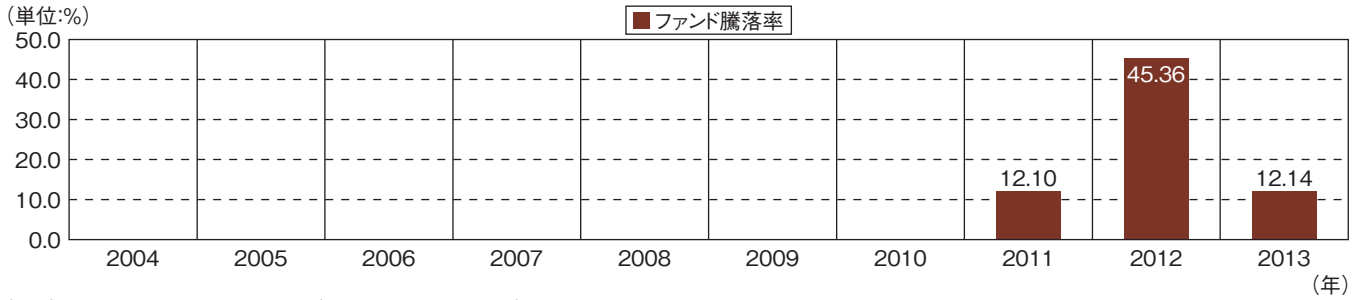
分配の推移(1万口当たり、税引前)

2012年10月	220円	(注1) 直近5期分の分配実績を記載しております。
2012年11月	220円	
2012年12月	220円	
2013年01月	220円	(注2) 収益分配金額は委託会社が決定します。分配を行わないこともあります。
2013年02月	220円	
直近1年間累計	2,640円	
設定来累計	3,440円	

※ファンドの運用実績は、あくまで過去の実績であり、将来の運用成果をお約束するものではありません。
 ※最新の運用実績は別途、委託会社ホームページでご確認いただけます。
 ※表中の各数値は四捨五入して表示していることがありますので、合計が100%とならない場合があります。

運用実績

年間収益率の推移(暦年ベース)



(注1) ファンド騰落率は、基準価額(税引前分配金再投資)を使用して算出しております。

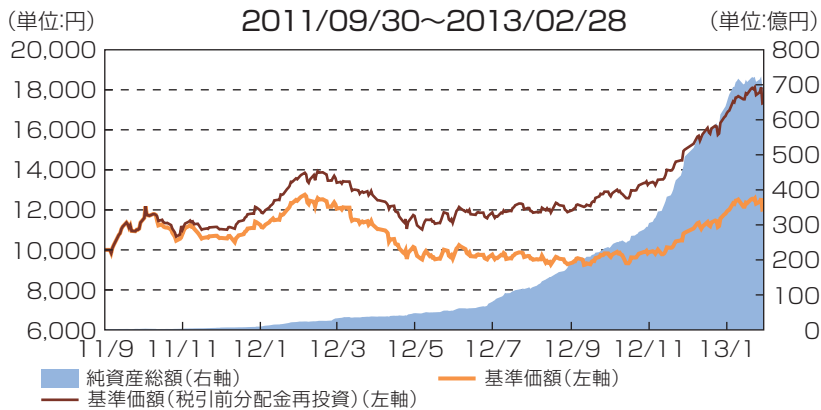
(注2) 2011年は設定日(2011年09月30日)を10,000とし年末までのもの、2013年は年初から基準日までの騰落率です。

(注3) 当ファンドは、ベンチマークを設定しておりません。

◆ブラジルリアルコース

(基準日:2013年2月28日)

基準価額・純資産の推移



(注1) 基準価額(税引前分配金再投資)は、税引前の分配金を決算日の基準価額で再投資したものととして委託会社にて計算しており、実際の騰落率とは異なります(以下同じ)。

(注2) 基準価額及び基準価額(税引前分配金再投資)の計算において信託報酬(純資産総額に対して年率0.9660%(税込))は控除されております(以下同じ)。

(注3) 当ファンドは、ベンチマークを設定しておりません。

(注4) 分配実績がない場合、あるいは設定来累計の分配金額が少額の場合、基準価額及び基準価額(税引前分配金再投資)のグラフが重なって表示される場合があります。

基準価額	12,039円
純資産総額	697.87億円

(注) 基準価額は、分配金控除後です。

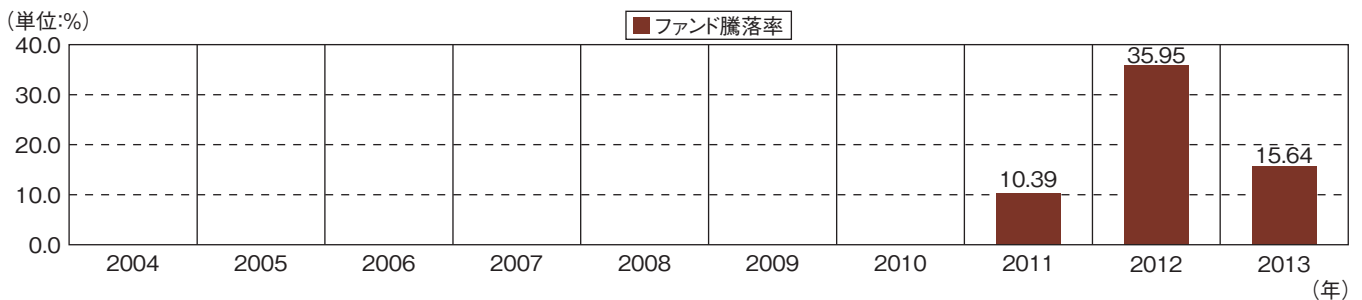
構成比率(対純資産)

NikkoAM Asia Investment Series-NikkoAM AsiaHighYieldBondFund II	93.85%
マネーブルマザーファンド	1.00%
コール・ローン等	5.15%
合計	100.00%

分配の推移(1万口当たり、税引前)

2012年10月	245円	(注1) 直近5期分の分配実績を記載しております。
2012年11月	245円	
2012年12月	245円	
2013年01月	245円	
2013年02月	245円	
直近1年間累計	2,940円	(注2) 収益分配金額は委託会社が決定します。分配を行わないこともあります。
設定来累計	3,860円	

年間収益率の推移(暦年ベース)



(注1) ファンド騰落率は、基準価額(税引前分配金再投資)を使用して算出しております。

(注2) 2011年は設定日(2011年09月30日)を10,000とし年末までのもの、2013年は年初から基準日までの騰落率です。

(注3) 当ファンドは、ベンチマークを設定しておりません。

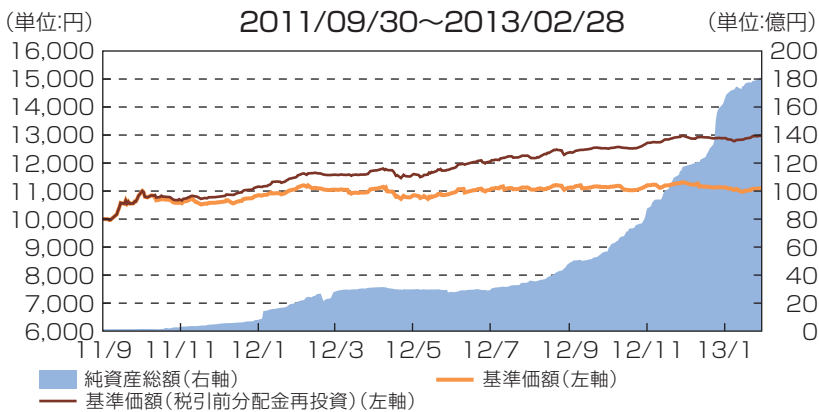
※ファンドの運用実績は、あくまで過去の実績であり、将来の運用成果をお約束するものではありません。
 ※最新の運用実績は別途、委託会社ホームページでご確認いただけます。
 ※表中の各数値は四捨五入して表示していることがありますので、合計が100%とならない場合があります。

運用実績

◆日本円コース

(基準日:2013年2月28日)

基準価額・純資産の推移



- (注1) 基準価額(税引前分配金再投資)は、税引前の分配金を決算日の基準価額で再投資したものととして委託会社にて計算しており、実際の騰落率とは異なります(以下同じ)。
 (注2) 基準価額及び基準価額(税引前分配金再投資)の計算において信託報酬(純資産総額に対して年率0.9660%(税込み))は控除されております(以下同じ)。
 (注3) 当ファンドは、ベンチマークを設定しておりません。
 (注4) 分配実績がない場合、あるいは設定来累計の分配金額が少額の場合、基準価額及び基準価額(税引前分配金再投資)のグラフが重なって表示される場合があります。

基準価額	11,092円
純資産総額	181.05億円

(注) 基準価額は、分配金控除後です。

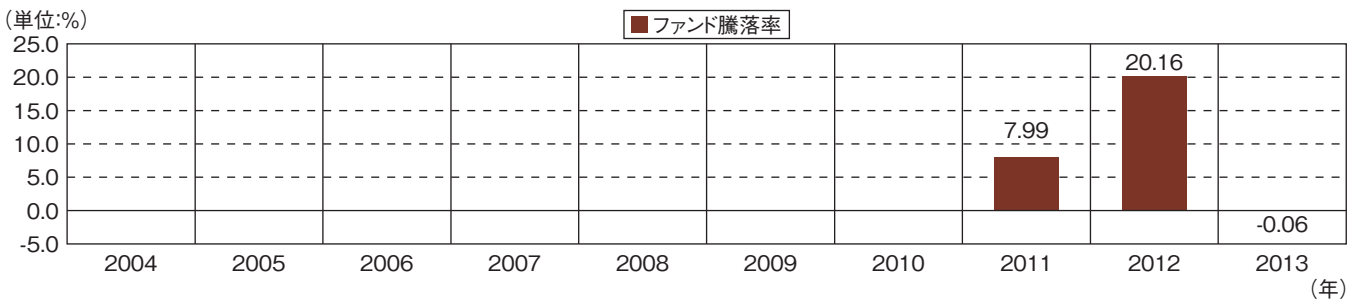
構成比率(対純資産)

NikkoAM Asia Investment Series-NikkoAM AsiaHighYieldBondFund I	94.88%
マネーブルマザーファンド	1.00%
コール・ローン等	4.12%
合計	100.00%

分配の推移(1万口当たり、税引前)

2012年10月	110円	(注1) 直近5期分の分配実績を記載しております。
2012年11月	110円	
2012年12月	110円	
2013年01月	110円	
2013年02月	110円	
直近1年間累計	1,320円	(注2) 収益分配金額は委託会社が決定します。分配を行わないこともあります。
設定来累計	1,720円	

年間収益率の推移(暦年ベース)



- (注1) ファンド騰落率は、基準価額(税引前分配金再投資)を使用して算出しております。
 (注2) 2011年は設定日(2011年09月30日)を10,000とし年末までのもの、2013年は年初から基準日までの騰落率です。
 (注3) 当ファンドは、ベンチマークを設定しておりません。

投資信託証券(Nikko AM Asia Limited Investment Series-Nikko AMアジア・ハイ・イールド・ボンド・ファンド)

日興アセットマネジメント アジア リミテッドが作成したデータを掲載しております。

構成比率(対純資産)

債券等	76.6%
現金等	23.4%
合計	100.0%

ポートフォリオ概況

クーポン	8.6%
最終利回り	4.9%
修正デュレーション(年)	3.6
平均格付	BB

(注1) 平均格付とは、当ファンドが保有している有価証券に係る信用格付を加重平均したものであり、当ファンドに係る信用格付ではありません。

(注2) 最終利回りは、ファンド組入銘柄等の利回りの加重平均等により算出したものであり、ファンド全体の期待利回りを示すものではありません。

※ファンドの運用実績は、あくまで過去の実績であり、将来の運用成果をお約束するものではありません。
 ※最新の運用実績は別途、委託会社ホームページでご確認いただけます。
 ※表中の各数値は四捨五入して表示していることがありますので、合計が100%とならない場合があります。

組入上位10銘柄

	銘柄名	クーポン	償還日	国・地域	業種	格付	純資産比
1	Evergrande Real 13 27/01/15 Re	13.000%	2015/01/27	中国	不動産	BB	2.1%
2	Big Will Invst 10.875 29/04/16	10.875%	2016/04/29	中国	各種金融サービス	BB	1.7%
3	Shimao Property 9.65 03/08/17	9.650%	2017/08/03	香港	不動産	B	1.4%
4	Country Garden 11.125 23/02/18	11.125%	2018/02/23	中国	不動産	BB	1.3%
5	Vedanta Resource 9.5 18/07/18	9.500%	2018/07/18	インド	各種金属・鉱業	BB	1.3%
6	Agile Property 8.875 28/04/17	8.875%	2017/04/28	中国	不動産	BB	1.3%
7	Yuzhou Propertie 13.5 15/12/15	13.500%	2015/12/15	中国	不動産	B	1.2%
8	Agile Property 9.875 20/03/17	9.875%	2017/03/20	中国	不動産	BB	1.2%
9	Kwg Property Hol 13.25 22/03/1	13.250%	2017/03/22	中国	不動産	B	1.2%
10	Kaisa Group 13.5 28/04/15 Regs	13.500%	2015/04/28	中国	不動産	B	1.2%
組入銘柄数							163銘柄

(注1) 格付は、S&P及びムーディーズのうち、最上位の格付を採用しています。

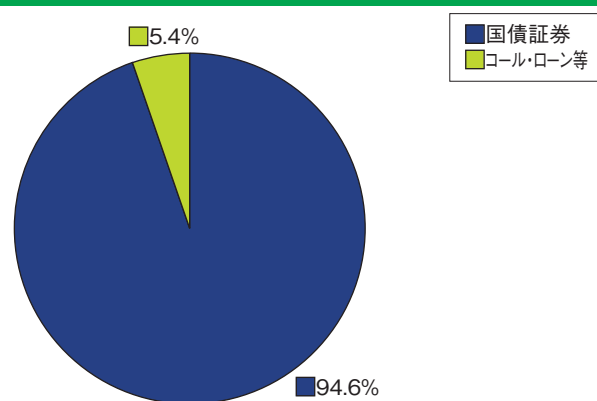
(注2) 格付のない発行体については、日興アセットマネジメント アジア リミテッドの社内格付を採用しています。

マネープールマザーファンド

構成比率(対純資産)

公社債	94.61%
コール・ローン等	5.39%
合計	100.00%

種類別構成比率(対純資産)



組入上位10銘柄

	銘柄名	種類	償還日	純資産比
1	315 国庫短期証券	国債証券	2013/04/10	36.1%
2	343 国庫短期証券	国債証券	2013/08/09	32.5%
3	337 国庫短期証券	国債証券	2013/07/10	21.7%
4	307 国庫短期証券	国債証券	2013/03/11	4.3%
5	-	-	-	-
6	-	-	-	-
7	-	-	-	-
8	-	-	-	-
9	-	-	-	-
10	-	-	-	-
銘柄数				4銘柄

※ファンドの運用実績は、あくまで過去の実績であり、将来の運用成果をお約束するものではありません。
 ※最新の運用実績は別途、委託会社ホームページでご確認いただけます。
 ※表中の各数値は四捨五入して表示していることがありますので、合計が100%とならない場合があります。

手続・手数料等

お申込みメモ

購入単位	販売会社が定める単位 ※詳細につきましては、販売会社までお問い合わせください。
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額
購入代金	販売会社が定める日までにお支払いください。
換金単位	販売会社が定める単位 ※詳細につきましては、販売会社までお問い合わせください。
換金価額	換金請求受付日の翌営業日の基準価額から信託財産留保額を控除した額
換金代金	換金請求受付日から起算して、原則として8営業日目からお支払いします。 換金の申込金額が多額であると判断した場合、主要投資対象とする投資信託証券の解約および換金の停止ならびに基準価額算出の中止、取引所における取引の停止等*その他やむを得ない事情により、有価証券の売却(主要投資対象とする投資信託証券の解約または換金を含みます。)や売却代金の入金が遅延したとき等は、換金代金の支払いを延期する場合があります。 ※外国為替取引の停止、決済機能の停止、取引市場における流動性が極端に減少した場合、取引市場の混乱、自然災害、テロ、大規模停電、システム障害等により基準価額の算出が困難となった場合、投資対象国等における非常事態(金融危機、デフォルト、重大な政策変更や資産凍結を含む規制の導入、税制の変更、自然災害、クーデターや重大な政治体制の変更、戦争等)による市場の閉鎖または流動性の極端な減少もしくは資金決済に関する障害等をいいます。以下同じ。
申込不可日	シンガポールの銀行休業日においては、お申込みを受付けません。
申込締切時間	原則として午後3時まで(販売会社により異なる場合がありますので、詳細につきましては販売会社までお問い合わせください。)
購入の申込期間	平成24年11月10日から平成25年11月7日まで ※申込期間は上記期間満了前に有価証券届出書を提出することにより更新されます。
換金制限	信託財産の資金管理を円滑に行うため、大口の換金請求を制限する場合があります。
購入・換金 申込受付の中止 及び取消し	委託会社は、購入・換金の申込金額が多額であると判断した場合、主要投資対象とする投資信託証券の申込み・解約及び換金の停止ならびに基準価額算出の中止、取引所における取引の停止等その他やむを得ない事情があると判断したときは、購入・換金の受付を中止すること、及び既に受付けた当該申込みの受付を取り消すことができるものとします。
信託期間	平成28年8月10日まで(設定日 平成23年9月30日) ※委託会社は、信託約款の規定に基づき、信託期間を延長することができます。
繰上償還	主要投資対象とする投資信託証券が償還する場合、各ファンドの受益権の残存口数が10億口を下回ることとなった場合、またはりそなアジア・ハイ・イールド債券ファンドの全てのファンドの合計残存口数が50億口を下回ることとなった場合、繰上償還することが受益者のため有利であると認めるとき、またはやむを得ない事情が発生したときは、繰上償還させることがあります。
決算日	原則、毎月10日。(休業日の場合は翌営業日)
収益分配	毎決算時(年12回)、収益分配方針に基づいて収益の分配を行います。 ※分配金を受取る一般コースと、分配金を再投資する自動けいぞく投資コースがあります。販売会社によっては、どちらか一方のみのお取扱いとなる場合があります。各コースのお取扱いにつきましては、販売会社までお問い合わせください。 ※ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わないことがあります。
信託金の限度額	各ファンドについて、3,000億円
公告	日本経済新聞に掲載します。
運用報告書	原則、毎年2月、8月の決算時及び償還時に、運用報告書を作成し、あらかじめお申し出いただいたご住所に販売会社を通じて交付します。
課税関係	課税上は株式投資信託として取扱われます。配当控除、益金不算入制度の適用はありません。
スイッチング	販売会社によっては、各ファンド間のスイッチングの取扱いを行う場合があります。スイッチングの際には、購入時及び換金時と同様に、費用・税金がかかる場合があります。詳細につきましては、販売会社までお問い合わせください。

手続・手数料等

ファンドの費用・税金

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用																		
購入時手数料	購入価額に <u>3.675%(税抜3.5%)</u> を上限として販売会社が定めた手数料率を乗じた額です。 ※詳細につきましては、販売会社までお問い合わせください。																	
信託財産留保額	換金請求受付日の翌営業日の基準価額に <u>0.3%</u> を乗じた額です。																	
投資者が信託財産で間接的に負担する費用																		
運用管理費用 (信託報酬)	各ファンドの日々の純資産総額に対して <u>年率0.9660%(税抜0.92%)</u> を乗じた額とし、毎計算期末または信託終了のときに、信託財産中から支弁するものとします。 運用管理費用(信託報酬)の配分は以下の通りです。																	
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>各ファンドの純資産総額</th> <th>委託会社</th> <th>販売会社</th> <th>受託会社</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100億円未満の場合</td> <td>年率0.4305% (税抜0.41%)</td> <td>年率0.5040% (税抜0.48%)</td> <td rowspan="4">年率0.0315% (税抜0.03%)</td> </tr> <tr> <td>100億円以上 200億円未満の場合</td> <td>年率0.3885% (税抜0.37%)</td> <td>年率0.5460% (税抜0.52%)</td> </tr> <tr> <td>200億円以上 300億円未満の場合</td> <td>年率0.3570% (税抜0.34%)</td> <td>年率0.5775% (税抜0.55%)</td> </tr> <tr> <td>300億円以上の場合</td> <td>年率0.3255% (税抜0.31%)</td> <td>年率0.6090% (税抜0.58%)</td> </tr> </tbody> </table>	各ファンドの純資産総額	委託会社	販売会社	受託会社	100億円未満の場合	年率0.4305% (税抜0.41%)	年率0.5040% (税抜0.48%)	年率0.0315% (税抜0.03%)	100億円以上 200億円未満の場合	年率0.3885% (税抜0.37%)	年率0.5460% (税抜0.52%)	200億円以上 300億円未満の場合	年率0.3570% (税抜0.34%)	年率0.5775% (税抜0.55%)	300億円以上の場合	年率0.3255% (税抜0.31%)	年率0.6090% (税抜0.58%)
	各ファンドの純資産総額	委託会社	販売会社	受託会社														
	100億円未満の場合	年率0.4305% (税抜0.41%)	年率0.5040% (税抜0.48%)	年率0.0315% (税抜0.03%)														
	100億円以上 200億円未満の場合	年率0.3885% (税抜0.37%)	年率0.5460% (税抜0.52%)															
200億円以上 300億円未満の場合	年率0.3570% (税抜0.34%)	年率0.5775% (税抜0.55%)																
300億円以上の場合	年率0.3255% (税抜0.31%)	年率0.6090% (税抜0.58%)																
投資対象とする投資信託証券の信託報酬等	<u>年率0.77%</u> ※上記のほか、投資信託証券の設立・開示に関する費用等(監査報酬、弁護士報酬等)、管理報酬等がかかります。																	
実質的な運用管理費用(信託報酬)	各ファンドの純資産総額に対して <u>概ね1.7360%(税込・年率)程度</u> となります。 ※各ファンドの運用管理費用(信託報酬)年率0.9660%(税抜0.92%)に投資対象とする投資信託証券の信託報酬等(年率0.77%)を加算しております。投資信託証券の組入状況等によって、各ファンドにおける、実質的に負担する運用管理費用(信託報酬)は変動します。																	
その他の費用・手数料	<p>◆監査報酬 各ファンドの日々の純資産総額に定率(年0.0021%(税抜0.0020%))を乗じた額とします。但し、実際の費用額(年間26.25万円(税抜25万円))を上限とします。 なお、上限額は変動する可能性があります。</p> <p>◆その他の費用(*) ・組入価証券の売買の際に発生する売買委託手数料 ・売買委託手数料に対する消費税等相当額 ・コール取引等に要する費用 ・外国における資産の保管等に要する費用 ・信託財産に関する租税 ・受託会社の立替えた立替金の利息 等</p> <p>(*)「その他の費用」については、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を表示することができません。</p>																	

※当該手数料等の合計額については、投資者の皆様がファンドを保有される期間、売買金額等に応じて異なりますので、表示することができません。

税金

・税金は表に記載の時期に適用されます。

・以下の表は、個人投資者の源泉徴収時の税率であり、課税方法等により異なる場合があります。

時期	項目	税金
分配時	所得税及び地方税	配当所得として課税 普通分配金に対して10.147%
換金(解約)時 及び償還時	所得税及び地方税	譲渡所得として課税 換金(解約)時及び償還時の差益(譲渡益)に対して10.147%

※上記は、平成25年3月末現在のものです。平成26年1月1日以降は20.315%となる予定です。

なお、税法が改正された場合等には、税率等が変更される場合があります。

※法人の場合は上記とは異なります。

※税金の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

通貨選択型投資信託の取引に関する確認書

株式会社 **近畿大阪銀行** 御中

私(当社)は、本商品について十分な説明を受け、元本の安全性の低い商品であるとともに、投資対象資産の価格変動リスクに加えて複雑な為替変動リスクを有する、特にリスクの高い商品であることを理解しました。

また、私(当社)は下記を踏まえ、私(当社)の判断と責任において本商品の契約を締結することをここに確認します。

記

私(当社)は、本商品について、特に次に掲げる事項について、目論見書等により十分な説明を受け、理解しました。

- ①投資対象資産が値下がりした場合は、基準価額の下落要因となること。
- ②「選択した通貨」(コース)の短期金利が、投資信託の「投資対象資産の通貨」の短期金利よりも低くなった場合は、その金利差による「為替ヘッジコスト」が発生すること。
- ③「選択した通貨」の円に対する為替変動の影響により、「選択した通貨」の対円レートが下落(円高)した場合は、為替差損が発生すること。
(※ 選択した通貨が「円」の場合には、③は発生しません。)

(注)上記①～③の事項が同時に生じることにより、損失が拡大する可能性もあります。

以上